



米軍普天間基地は国際法違反 辺野古「移設」やめ、即時無条件で閉鎖・撤去を

日本共産党の赤嶺政賢衆院議員は、衆院予算委員会で11月10日、沖縄の米軍基地が米軍占領の下で国際法に違反した土地強奪によってつくられた経緯を示し、普天間基地の閉鎖・撤去を求めました。質問の要旨を紹介します。(しんぶん赤旗より)

普天間基地がどのようにできたか、その根本を見直すべき



普天間基地の返還が合意から15年を経ても実現しないのは、日米両政府が問題の根本をみない対応を進めてきたからだ。

赤嶺議員は、普天間基地をはじめとする米軍基地は、米軍が住民を収容所に入れてある間に土地を囲い込んでつくった事実をあげ、占領下でも私有財産の没収を禁じたハーグ陸戦法規に明白に違反すると指摘しました。

●赤嶺 野田首相は代表質問で「米軍基地の形成過程についてはさまざまな議論がある」と答えたが、沖縄の米軍基地が国際法に違反した不当な土地取り上げで構築されたという認識はないのか。

●玄葉光一郎外相 当時の米軍の行為が国際法に照らしてどうなのか現時点で判断するのは難しい。

不法・違法な土地収奪でつくられた基地は、国際法に照らしても違法

赤嶺議員は、1951年のサンフランシスコ講和条約後も沖縄は本土から切り離され占領が続けられたと主張。その下で、米軍による新たな土地強奪が行われた事実を示しました。

はせることが重要だ。

●赤嶺 米軍は銃剣を突きつけ、ブルドーザーで家をなぎ倒し基地を拡張した。朝鮮戦争や中華人民共和国樹立への対応だ。占領目的を日本軍国主義の除去などに限定したポツダム宣言に違反する。どう認識しているのか。

同じ答弁を繰り返す玄葉外相に、赤嶺議員は、71年に当時の佐藤栄作首相が土地取り上げについて「陸戦法規に違反する」と答弁していたことを示し、「そんなことで(普天間問題で)沖縄県民と交渉などできるのか」と批判しました。

●外相 国際法に照らした判断は確定的に申し上げることは困難。沖縄に強く思いを

赤嶺議員は、野田首相が代表質問で「72年の本土復帰後、米軍は日米地位協定の下で日本から適法に提供を受けている」と答弁したことを、不当・違法な土地強奪によってつくられた基地を、政府が沖縄返還協定でそのまま追認しただけだと反論しました。

沖縄県民は、基地のない平和な島を望んでいる

赤嶺議員は、琉球政府の屋良朝苗主席が71年11月、沖縄返還協定が審議されている国会に届けようとした建議書で、「県民は基地の島としてでなく、基地のない平和な島としての復帰を強く望んでいる」と述べていたことを紹介(写真)。「歴

史的経緯をふまえずに新たな基地を押し付けようとしても県民は受け入れない。根本原因を直視すべきだ」と迫り、普天間基地の辺野古「移設」を白紙に戻し、即時無条件で閉鎖・撤去することを強く求めました。

みなさんの要求実現へ全力

衆議院比例九州・沖縄(定数21)

衆議院議員 赤嶺 政賢



九州・沖縄ブロック事務局長 党国会議員団 田村 貴昭